

フィルムコーティングメーカーの(株)きもと(埼玉県さいたま市)が2011年、農業プロジェクト「きもとファーム」を立ち上げ、米作りに挑んでいる。現在、工場が位置する三重県いなべ市の中山間地域



で、水田など約5・5haを耕作。圃場は、狭かったり、山際に位置するなど条件に恵まれない場所がほとんどだ。事業は日本酒の醸造やダリア園の運営まで広がり、地域の活性化に大きく貢献している。

都市の企業が工場操業地で米作り

中山間地域の5.5haの耕作

日本酒の醸造・販売にも挑戦

同プロジェクトは、社員も受けづらい条件の貢献事業として始めたのがきっかけだ。同社顧問でファームの立ち上げから携わる岡本孝志さん(62)は「地域には高齢化に伴い、耕作困難な農地が多いことを知った。地権者が耕作に困り、担

ファーム立ち上げ 地域活性化に貢献

さいたま市 きもと



珍しいコシヒカリ100%の純米酒「会-KA-」



今年も社員が協力し、順調に田植えを進めた

はじめは、地域から「農業は甘くない」など懐疑的な視線を向けられることもあったが、兼業農

家だった社員らが機械を持ち寄り、地道に耕作を続けた。畦畔もきれいに管理する姿を見て、4、5年目から徐々に預かる水田が増えたという。当初40haだった耕作面積は現在、10倍以上。専属の社員5人が携わっている。水田ではコシヒカリと山田錦を作付ける。中山間地域ゆえ昼夜の寒暖差があり、養老山水系の清流が豊富な場所で作った米の食味は高い。コシヒカリは「実りの百年米」とブランド化。オンラインを中心に直売している。米作りは今後、有機栽培にもチャレンジする予定だ。

地元の酒蔵に委託して純米酒の醸造にも取り組む。今年には社員自ら醸造にも携わった。純米酒には、全国的にも取り組む事例が少ないコシヒカリ100%で醸造する「会-KA-」もラインアップ。売上げの増加をめざし、米とともに輸出も検討している。

地域で人気のダリア園 30万-3000球 開花期に無料開放



昨年、ダリア園には5000人以上が来場

併せて大きな注目を浴びているのがダリアの作付けだ。約30万に3千球が植わり無料で開放するダリア園には、昨年9月下旬、10月末の1カ月強の間に5千人以上が来場した。人手が必要な時期は地域の女性を中心とした有志で結成した「ダリア会」に協力を依頼。同

会には年齢制限がなく、約50人が所属する。岡本さんは「会をもっと大きくし、地域の中で関わる人を増やしたい。いなべ市をダリアの町にすることが目標。米作り、ダリア園ともに取り組みを継続・発展させ、地域の活性化に貢献し続けたい」と笑顔で語る。